

エアリアル・アート・ダンス・プロジェクト代表 若井田久美子のプロフィール



若井田 久美子(わかいだくみこ)

株式会社エアリアル・アート・ダンス・プロジェクト代表取締役
エアリアル・アート・ダンス・アカデミー主宰

空中パフォーマンス・代表テクニカルアドバイザー
空中パフォーマンス専用稽古場「エアリアルジム・くう」最高顧問

1959年、東京都新宿区生まれ

東京都墨田区在住

エアリアル・アーティスト(芸術的な空中パフォーマー)の
養成から派遣までを一貫して行っている、日本で唯一の
専門組織を運営。

さて、あなたは「エアリアル」という言葉を聞いたことがありますか？

エアリアルとは、天井からつるした特殊な装置や道具を使い、
人並みはずれた身体能力をもつパフォーマーが、
その能力を最大限に生かしておこなう空中パフォーマンスのことです。

近年、度重なる来日公演で一躍注目を浴びているカナダのサーカス・アーティスト集団、
”シルク・ドゥ・ソレイユ”は、三次元の空間を自由に操り表現できる
エアリアル・パフォーマーの活躍が大変な評価を得ています。

私は、日本で唯一のエアリアル専門の練習場を東京に持ち、
12年前から養成所にてこのエアリアル・パフォーマーを育てています。
そして、この養成所から卒業したパフォーマーは100名を超えています。

養成所を卒業したエアリアル・パフォーマーは
「シルク・ドゥ・ソレイユ」の登録メンバーとなり、世界各国の公演に出演するなど、
その活躍の場を広げていっています。

また日本国内におきましても、年間100回を超えるテーマパーク公演、ホテルのディナーショー、
はたまたアーティストのコンサートツアー等へのエアリアル・パフォーマーの派遣も行っています。

【エアリアル・パフォーマー派遣の実績】

実績1.「新春スペシャル・エアリアル空中サーカス」(小田原ダイナシティ)

小田原ダイナシティは、ショッピング空間として地域の方々をはじめ、
各方面からのお客様もたくさん集まる、湘南エリア最大級のショッピングセンターです。

小田原ダイナシティには2012年から2017年までの6年間。
毎年、1月2日・3日のエアリアル出演させていただいています。(2018年も出演予定)

小田原ダイナシティへの派遣の場合・・・こんな声をいただいています！

「パフォーマーの息づかいがわかる距離で空中サーカスが見れる最高のお年玉」
「宙を舞うという演技が、新年の幕開けに相応しく縁起が良いショー」
「エアリアルなのに和調の曲や衣装で演技が、その場のお正月感をさらに盛り上げる」
「お客様が家族や友達連れで見に来てくれる」

「お正月はここでしか見られないから毎年リピートのお客様が見に来てくれる」

そんな小田原ダイナシティでの空中サーカスの映像はこちら

<https://youtu.be/KY0voMr4qII>

【他の主なパフォーマー派遣の実績】

- ・「NAOTORA 女性サミット」オープニングショー(アクトシティ浜松)
- ・「FANTASIA - EPISODE1 PRINCESS KAGUYA -」(幕張メッセ国際展示場)
- ・「エアリアルシルク」(ホテルシティプラザ北上)
- ・志摩スペイン村「ロストレジェンド～シルコ・デ・ティエラ」
- ・「新春スペシャル・エアリアル空中サーカス」(小田原ダイナシティ)
- ・「ワンダー空中サーカス」(スマーク伊勢崎)
- ・XFLAG PARK 2016「AXION～EPISODE of TEQUILA～」(幕張メッセ国際展示場)
- ・「GRANRODEO LIVE 2016 G11 ROCK☆SHOW -TRECAN PARTY-」(国立代々木競技場 第一体育館)
- ・GYMNASTIC ART FESTA in the dream Spin-off「GIFT」(舞浜アンフィシアター)
- ・「エアリアル空中サーカス」(イオンモール土浦)
- ・「Tokyo Creative Kids Festival 2016」(舞浜アンフィシアター)
- ・レスポートサック「SAY HELLO TO THE NEW LESPORTSAC NIGHT」(青山・スパイラルガーデン)
- ・「Cirque aérien! ～エアリアル空中サーカス～」(イオンモール幕張新都心)
- ・レオナルド「2015 LEONARD Premium Party」(阪急うめだホール)
- ・「品川シーズンテラス・オープニングセレモニー・ナイトイベント」(品川シーズンテラス)
- ・ジェネスピュア「Grand Opening Event Sapphire Night」(舞浜アンフィシアター)
- ・GYMNASTIC ART FESTA in the dream vol.1「DOOR」(舞浜アンフィシアター)
- ・「エアリアルシルク」(札幌定山溪ビューホテル)
- ・「クリスマス空中サーカス」(川崎アゼリア)
- ・「Road to Ultra Tokyo @新木場ageHa」(新木場・ageHa)
- ・「エアリアル空中サーカス」(三井アウトレットパーク・木更津)
- ・「エアリアル空中サーカス」(三井アウトレットパーク・倉敷)
- ・「Andy Lau Always 2013 China Tour Nanjing Concert」(中国全土ツアー)
- ・EXILE LIVE TOUR 2013「EXILE PRIDE」(全国ドームツアー)
- ・AKB48グループ臨時総会 ～白黒つけようじゃないか～ AKB48グループ総出演夜公演(日本武道館)
- ・KARA「KARASIA 2013 HAPPY NEW YEAR in TOKYO DOME」(東京ドーム)

上記は実績の一部です。詳しくは弊社ホームページ内「活動実績」ページをご覧ください。

「活動実績」ページはこちらから

<http://www.aerial-artdance.com/article/13298903.html>

【体操競技でオリンピックを目指すも挫折】

3歳より、クラシックバレエを習い、中学で体操競技に転向。
いつしかオリンピックに出場することを夢見て、とにかく体操に明け暮れた中高生時代を過ごした。

人前で話すことが決して得意ではなかった。それでも、
「人前で何か見せたい！自分を表現したい！」のポリシーは、
この頃から育まれていたかもしれない。

日本体育大学に体操推薦にて入学し、体操競技部に入部。
大学1年時の1978年、全日本体操競技選手権27位でオリンピック最終選考に残る。

だが、最終選考会で左膝半月板損傷を負い途中棄権。オリンピック出場は夢と消える。
その後リハビリを繰り返すも選手としての体操競技復帰は二度と叶わなかった。

【ジャズダンスとの出会い】

体操競技という生き甲斐を失い、途方に暮れる日々。

そんな時、日本ジャズダンス界の重鎮、名倉加代子（現日本ジャズダンス芸術協会専務理事）の率いるカンパニーの公演を観て鳥肌が立った。

「鍛錬の積み重ねられた人の動きとは何て素晴らしい！」
「こんな人を感動させるダンスを私もやってみたい！」

体操競技では意識したことがなかった「観る人の心を動かす芸術性」に覚醒した瞬間であった。これが幸運にも第2の生き甲斐となることになる。

元々の「人前で自分を表現したい」という私の奥底にあるものにも再度火が着き、あっという間にジャズダンスにのめり込んでいく。

【女性だけのアクロバットダンス・カンパニーを設立】

そんな日々、充実していたダンサー生活ではあったが、ある思いが徐々に強くなってきていた。

「私の持っている能力を最大限に生かせるダンス・パフォーマンスができないだろうか？」
「それに私と同じような競技を引退して行く場所が無い人の次の居場所を作りたい！」

そんな思いから、自分と同じ境遇の日本トップレベルの体操競技選手たちを集めた日本初の女性だけのアクロバットダンスカンパニー「G-Rockets」を立ち上げ、1996年から、カンパニーのパフォーマンスリーダーとして活動を開始する。

【不足感。そして空中サーカスとの出会い】

従来の二次元のダンスシーンにアクロバットの動きを取り入れ、今までにない立体的で斬新な三次元パフォーマンスを完成させることで一躍、世間に注目されるようになる。

様々な舞台やステージ、メディアに出演できるようになり順風満帆に見えたがカンパニーのマネージメントに別事務所が介入することになってからよりカンパニーの活動がエンターテイメント色が強くなっていく。

「歌も歌える、芝居もできる、そんなオールラウンドなアクロバットダンサー」

外から見たら途方も無く魅力的なパフォーマー。
でもそこには私が求めた「アート」はなかった。いつも何か不足感があった。

そんな中、アルベールビル・オリンピック開会式の演出を観て戦慄が走る。そう、空中サーカスとの出会いである。

「これ、私が最初に誰よりもやりたかった！」これが素直な感想であった。この日を境に私の中の頭の片隅に「空中サーカス」が存在するようになる。

【フリーへ。そして渡仏へ。】

私と事務所とのパフォーマンスにおける方向性の違いは大きく、ついに2002年にフリーランスとなる。

「やっぱり私がやりたいのは、芸術的なパフォーマンス、、、」
「しかもまだ誰もやったことがないパフォーマンスをやってみたい！」

その時、脳裏に浮かんだのが

オリンピック開会式で見たあの「空中サーカス」であった。

しかし、当時、日本では「空中サーカス」を教えてくれる人は皆無。
教われる場所も存在していなかった。

「日本に教えてくれる人がいないなら、教えてくれる人がいる場所へ行けばいい！」

昔から「猪突猛進」型の私。思いついたが即行動。
何も考えずにトランク1つだけでフランスへ。

フランスを選んだ理由は、紹介してもらった「空中サーカス」の先生がフランス人ということ。
そして、空中サーカス発祥のヨーロッパの地で本場のスキルを学びたかったのだ。

先生の名はフレッド。女性の空中パフォーマーだ。
最初の師がフレッドだったことは、私にとって最大の幸運だった。

彼女は、私が学びたいもの全てを持っていた。
彼女のパフォーマンススキルが高いことはもちろんのこと、その所作の全てが芸術的であった。

私は彼女から空中サーカスの花形というべき、布を使用したパフォーマンスである
「エアリアルティシュー」(エアリアルシルクともいう)を徹底的に教わった。

フリーランスとなった特権を最大限に生かし、私は年間に複数回の渡仏を繰り返し
エアリアルティシューのスキル習得とその研鑽に没頭した。

エアリアルティシュー以外の空中パフォーマンスも習得し、私の渡仏修行も順調だったが
ここで1つの問題が持ち上がってきた。

【エアリアル練習場の建設。そして養成所の設立へ】

その問題とは、日本には空中パフォーマンスの練習できる場所が無いことだった。

渡仏を繰り返していた2002年当時、日本では全く認知されていなかった空中パフォーマンスを
練習できる場所は当然存在していなかった。

空中パフォーマンスを練習するための条件は2つ。

1つは、その場所に全く問題ない強度のある天井(梁)があること。
当然だ。人間を吊るしてもビクともしない天井に器具を設置できないと大惨事になるからだ。

もう1つは、その場所が最低でも6メートル以上の高さの空間であること。
本来、空中パフォーマンスとは非現実的な空間の高さ(約10メートル前後)で行うもの。
となれば練習といえども、やはり最低限の高さの空間が必要だ。

※以下、近日公開。